

# エメックス国際セミナー

持続可能な河口域・海域生態系の評価はどうするのか？

## EMECS International Seminar

How should sustainable estuarine and marine ecosystems be evaluated?



日時： 2019年7月17日(水) 午後1時30分～午後5時15分

会場： ラッセホール 2階 ローズサルーン

主催： (公財)国際エメックスセンター

後援： 兵庫県、瀬戸内海環境保全知事・市長会議、(公社)瀬戸内海環境保全協会、  
(特非)瀬戸内海研究会議、ひょうご環境保全連絡会、(公財)ひょうご環境創造協会、  
兵庫県環境保全管理者協会、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)、(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)

**Time / Date : 13:30 – 17:15 , (Wed.) 17 July, 2019**

**Venue: Rose saloon, 2<sup>nd</sup> floor, Lasse Hall, Kobe, Hyogo, Japan**

**Organizer: International EMECS Center**

Supporters: Hyogo Prefectural Government, Governors and Mayor's Conference on the Environmental Protection of the Seto Inland Sea, The Association for the Environmental Conservation of the Seto Inland Sea, The Research Institute for the Seto Inland Sea, Hyogo Environmental Conservation Association, Hyogo Environmental Advancement Association, Hyogo Prefecture Association for Corporate Environmental Conservation, The Asia-Pacific Network for Global Change Research, The Institute for Global Environmental Strategies



(公財) 国際エメックスセンター

International EMECS Center

# 講演者 Lecturers

## 藤原 建紀 Prof. Tateki Fujiwara

京都大学 名誉教授  
Professor Emeritus, Kyoto University

1971年3月 大阪大学理学部卒業  
1973年3月 大阪大学理学研究科物理学専攻修了  
1973年3月 経済産業省工業技術院中国工業技術研究所 研究員  
1992年9月 京都大学農学部 助教授  
2003年4月 京都大学 教授  
2013年3月 同大学定年退職、京都大学名誉教授  
2013年4月 いであ(株)技術顧問 現在に至る  
専門分野: 海洋生物環境学、研究内容: 沿岸の海を豊かで、かつ、きれいにするための科学・技術体系の構築。  
主な成果: 瀬戸内海の海水交換時間(0.5年)を初めて示した。外海から瀬戸内海に窒素・リンが流入していることを初めて示した。地球自転により、エスチュアリー循環流が(北半球で)時計回りの水平循環流となることを最初に示した。



## ディヴィッド・ネマジー Mr. David Nemazie

米国・メリーランド大学環境科学センター首席補佐官  
Chief of Staff, University of Maryland Center for Environmental Science (U.S.A.)

1991年米国・メリーランド大学大学院海洋・河口域・環境科学プログラムで修士を取得。卒業後、同大学ホーンポイント研究所のリサーチアシスタント、同大学管理センターのシニアリサーチアシスタント、同大学学長アシスタント、同大学対外部門担当副学長アシスタントを経て2015年から現職。  
2003年から日本、中国、ブラジル、フィンランド、ハンガリー等の国からのチェサピーク湾訪問団の受入、2013年から環境回復におけるメリーランド州およびブラジル・リオデジャネイロ州の2州間関係の促進を現在まで行っている。  
2011年はボルティモアで開催した第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(第9回エメックス会議 / EMECS9)の現地コーディネーター等を務めた。2015年から国際エメックスセンター科学・政策委員。



## ロバート・サマーズ Dr. Robert Summers

米国・メリーランド大学環境科学センター上級科学的研究員  
Senior Research Scientist, University of Maryland Center for Environmental Science (U.S.A.)

1983年から2015年まで米国・メリーランド州の環境プログラムの開発および指導するチームの一員として取り組んだ。2010年にマーティン・オマリー州知事(当時)により同州環境庁長官に任命、2015年に退職するまで務めた。また、環境長官として、またその前は副長官として4年間、同庁の公衆衛生の保護、大気と水質保全、汚染された土地の浄化などのための計画、規制、管理および資金調達プログラムを率いた。  
現在はメリーランド大学環境科学センターの上級研究員であり、水質、流域修復を専門とする他、ジョンズ・ホプキンス大学にて教鞭をとる。また、政府機関や企業が環境戦略の策定やステークホルダーの支援を構築し、州・連邦および地方自治体の許可を得るための環境コンサルティングを行っている。



## マイケル・エリオット Prof. Michael Elliott

英国・ハル大学教授、ECSS共同編集長  
Professor, University of Hull (UK)  
Co-Editor in Chief, ECSS

英国・ハル大学河口域・沿岸域科学の教授。1996年から2017年まで河口域・沿岸域研究所(IECS)所長。幅広い経験と知識を持つ海洋生物学者で、教育、研究、助言およびコンサルタントは河口・海洋生態学、政策、統治および管理を含む。また、共著/共編集18冊の本および議事録と270以上の科学出版物を発行している。世界中の学術分野、工業分野、政府に対し、多くの環境課題について多数の助言を行っている。  
河口域・沿岸科学学会(ECSA)の元会長。現在は国際学術誌「Estuarine, Coastal & Shelf Science」の共同編集長。また、マードック大学(オーストラリア)、クライペダ大学(リトアニア)、パレルモ大学(イタリア)等で非常勤教授や研究職に就いている。



# 講演者 Lecturers

陳 中原  
Prof. Zhongyuan Chen

中国・華東師範大学 教授  
Professor, East China Normal University (China)

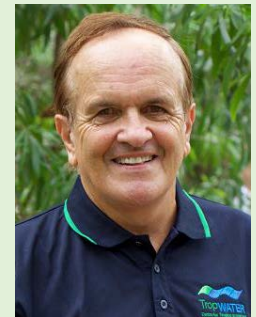
華東師範大学河口海岸学国家重点実験室 教授  
メルボルン大学 地理学名誉教授  
地形学者であり、研究および指導分野は地理学、地形学、水文学、環境変動にわたる。現在は華東師範大学河口海岸学国家重点実験室にて教鞭をとり研究を行っている。  
地球圏・生物圏国際共同研究計画(IGBP)による海域相互作用研究計画(LOICZ)の科学運営委員会委員。  
学術誌「Geomorphology」「Estuarine, Coastal and Shelf Sciences」の編集長を務める他、国際的な学術誌で編集委員を務めている。



エリック・ウォランスキー  
Prof. Eric Wolanski

オーストラリア・ジェームスクック大学 教授  
Professor, James Cook University (Australia)

ジェームスクック大学およびオーストラリア海洋科学研究所の河口・海洋学者で水文学者でもある。研究分野はサンゴ礁、マングローブ、河口域底泥に関する海洋学から、熱帯水域の生態系健全性を決める物理学的・生物学的プロセスの相互作用にわたる。  
著作物に12冊の本をはじめとして400以上の科学的著作物を技術レポートがある。  
ルーヴァン・カトリック大学(ベルギー)およびハル大学(英国)から名誉博士号を授与された他、河口域・沿岸域学会から特別功労賞を受賞。  
学術誌「Wetland Ecology and Management, Treatise on Estuarine and Coastal Science」編集長、「Estuarine, Coastal and Shelf Sciences」名誉編集長。



【座長】  
渡邊 正孝  
Prof. Masataka Watanabe

国際エメックスセンター科学・政策委員長、中央大学研究開発機構教授  
Chair, EMECS Center Scientific & Policy Committee / Professor, Chuo University

京都大学工学部卒業。同大学院修士課程修了後マサチューセッツ工科大学(MIT)にて博士号取得。その後MIT  
研究員、国際応用システム解析研究所研究員、国立環境研究所水圏環境研究領域長、東京大学大学院農学生命科学研究科教授、慶應義塾大学環境情報学部教授を歴任。2014年より現職。  
中国科学院地理科学与環境資源研究所客員教授。  
2009年よりEMECS科学政策委員会委員長、2010年よりUNEPアジア太平洋適応ネットワーク議長に就任。  
専門は生態系モデリング、気候変動影響予測、気候変動適応計画、持続可能管理・政策



## EMECS13 - ECSA58ジョイント会議のご案内

マイケル・エリオット  
Prof. Michael Elliott

英国・ハル大学教授、ECSS共同編集長  
Professor, University of Hull (UK)  
Co-Editor in Chief, ECSS



ティム・イェンネルヤーン  
Dr. Tim Jennerjahn

ドイツ・ライプニッツ熱帯海洋研究センター生態生物地球科学ワーキンググループ長、ECSS編集長  
Head Working Group Ecological Biogeochemistry, Leibniz Centre for Tropical Marine Research (Germany), Editor in Chief of ECSS





# プログラム Program

13:30 -13:40	開会挨拶 / Opening remarks	<b>松田 治</b> 国際エメックスセンター副理事長、広島大学名誉教授 <b>Osamu Matsuda</b> Vice-Chair, Board of Directors, International EMECS Center Professor Emeritus, Hiroshima University (Japan)
<b>【講演】</b> <b>【Lectures】</b>	<b>座長：渡邊 正孝</b> <b>Moderator : Masataka Watanabe</b>	国際エメックスセンター科学・政策委員長、中央大学研究開発機構教授 Chair, EMECS Scientific & Policy Committee Professor, Chuo University (Japan)
13:40 -14:10	<b>〈講演1 / Lecture 1〉</b> 栄養塩濃度の低下が沿岸海域の生態系に及ぼす影響 ーデータ解析と現地実験ー Impact of nutrient load reduction on coastal marine ecosystem: data analysis and field experiments in the eastern Seto Sea	<b>藤原 建紀</b> 京都大学名誉教授 <b>Tateki Fujiwara</b> Professor Emeritus, Kyoto University (Japan)
14:10 -14:40	<b>〈講演2 / Lecture 2〉</b> 気候変動、海洋ごみなど新たな課題をはじめとする持続可能な海洋・沿岸域生態系に向けての進捗評価 Evaluating progress toward sustainable marine and coastal ecosystems – including the challenges of climate change and marine debris	<b>ディヴィッド・ネマジー</b> 米国・メリーランド大学環境科学センター首席補佐官 <b>David Nemazie</b> Chief of Staff, University of Maryland Center for Environmental Science (U.S.A.) <b>ロバート・サマーズ</b> 米国・メリーランド大学環境科学センター上級科学 学研究員 <b>Robert Summers</b> Senior Research Scientist, University of Maryland Center for Environmental Science (U.S.A.)
14:40 -15:10	<b>〈講演3 / Lecture 3〉</b> 持続可能な統合的 海域管理のためのシステム分析アプローチ A systems analysis approach for the sustainable and integrated management of marine areas	<b>マイケル・エリオット</b> 英国・ハル大学教授、ECSS共同編集長 <b>Michael Elliott</b> Professor, University of Hull (UK) Co-Editor in Chief of ECSS
15:10 -15:40	<b>〈講演4 / Lecture 4〉</b> 中国の河口域：さらなる回復力と持続可能性への課題 China's estuaries: concerns towards more resilient and sustainable?	<b>陳 中原</b> 中国・華東師範大学教授 <b>Zhongyuan Chen</b> Professor, East China Normal University (China)
15:40 -15:50	休憩 / Break	
15:50 -16:20	<b>〈講演5 / Lecture 5〉</b> 持続可能な海洋生態系管理をどのように評価するのか？ How should marine ecosystem management be evaluated for sustainability?	<b>エリック・ウォランスキー</b> オーストラリア・ジェームス・クック大学教授 <b>Eric Wolanski</b> Professor, James Cook University (Australia)
16:20 -16:55	ディスカッション / Discussion	
16:55 -17:10	EMECS13-ECSA58 ジョイント会議のご案内 Invitation to EMECS13-ECSA58 Conference	<b>マイケル・エリオット</b> 英国・ハル大学教授、ECSS共同編集長 <b>Michael Elliott</b> Professor, University of Hull (UK) Co-Editor in Chief of ECSS <b>ティム・イェンネルヤーン</b> ドイツ・ライプニッツ熱帯海洋研究センター生態生物 地球科学ワーキンググループ長、ECSS編集長 <b>Tim Jennerjahn</b> Head, Working Group Ecological Biogeochemistry Leibniz Centre for Tropical Marine Research (Germany), Editor in Chief of ECSS
17:10 -17:15	閉会挨拶 / Closing	<b>春名 克彦</b> <b>Katsuhiko Haruna</b> 国際エメックスセンター専務理事 Executive Director, International EMECS Center